

2015 INTERNATIONAL 420 CLASS WORLD CHAMPIONSHIPS

420 クラスヨット世界選手権 2015 運営 Report

2015.8.10 JSAF レース委員会 磯部 君江

2015年7月17日(金)～25日(土)、佐賀県唐津市において、420ワールドが開催されました。参加艇数は予想を大きく上回る165艇というビッグな大会となりました。



各国お揃いのユニフォームで入場行進



唐津のゆるキャラも一緒に行進



ミニ唐津くんち



高円宮久子様をお迎えしての開会式

165艇の内訳は、オープン72艇、レディース60艇、アンダー17歳33艇です。オープンとレディースは各2フリートずつに分けられたので、1海面ながら、5フリートのレースとなりました。日が長く、夏でも風がある唐津だからこそほとんどのレースを行えたのではと思います。毎日が長い一日でした。

今回、レース委員会から岡村さんと一緒に東京オリンピックに向けた研修の一環として運営に参加させていただきました。

私は、本部船でタイムキーパーの担当となり、初日、普通に「オレンジ旗掲揚まで〇〇分前」とコールしたところ、アドバイザーの大谷さんから「国際大会なんだから

英語でやって。」と突然の指令が！タイムキーパーだけではなく、風見担当の高校生にも「英語で言って。」と…。各マークボートも英語での風チェックを要求されましたが、長くは続かず・・・。

実は、昨年のアジア大会で韓国に行ったときに、陸上でトラッキングシステムによる映像が見られるのはよかったです。音声は韓国語だったため（何日目からか英語のカウントダウンが入るようになりましたが）に、状況どころか時間もわからず困った経験を自分自身でしているの、今回、U-STREAMでスタートの映像&音声はLiveで流れるということを知り、カウントダウンを英語ですることには反論の余地はありませんでした。



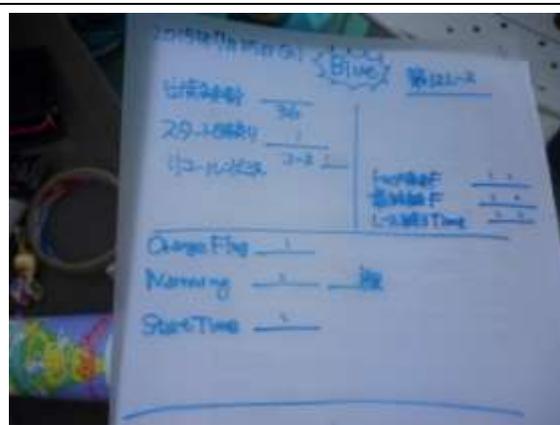
タイムキーパーにはありがたい大きな時計！



本部船で使っていた通信機器の数々



本部船の黒板には時間やコース等を記載



急ぎよ手書きで記録用紙を作成

今回の準備信号はU旗か黒旗だったので、ゼネラルリコールは少ない方だったとは思いますが、それでも5フリート×12レース（シルバーフリートは11レースでしたが）だとゼネリコも含め相当な数のスタートを行いました。そんな中、途中で集中力がなくなりタイムキーパーとしてのミスも何度か。（うち一度は時間を違えるという大チョンボでAP旗を揚げることに。。）

タイムキーパーとしてこの数を経験したことはなく、しかも初めての英語でのコールということもあっては気が張っていたせいか、集中力が続かなかったのは情けなか

ったです。でも失敗していてこういう言い方はどうかとは思いますが、いい経験ができました。

今回は唐津のOB方が運営主体でした。運営隊長の中山さんがどんな状況下にもいつもこやかで、冷静であったことは本当に助かりました。見習いたいと思います。



オールクリアでスタート



AP+A 旗 with 唐津城



本部船スタッフ



左から大谷、中山、Stani、磯部、保利

今回、私が唐津入りしたのは大会が始まる3週間前の6月26日でした。大会前に実行委員会（市役所）のお手伝いをする事になり、ヨットハーバー事務室に席をいただき、大会が始まる前から携わることとなりました。これも貴重な経験となりました。

唐津市ではこれまでも国際大会を何度も経験していて、市をあげて大会運営に携わっています。市役所の職員さんだけでなく、多くのボランティアさんや宿泊施設、レストラン等、町中が携わっていると言っても過言ではないと思います。

海外選手を受け入れるホテル、特に日本旅館の関係者の方は本当に大変なようでした。外国人選手が入浴した後は、大浴場の湯船に桶が浮いている、水着でお風呂に入る、洗濯物を手洗いしそのまま畳の部屋に干して畳がびしょびしょ等、日本人客では見られない状況に本当に困られたのではと思います。事前のレクチャーや英語での注意書き等が必須だと思いましたが、そんな中でもしっかり受け入れてくださる懐の深

さに、日本旅館の素晴らしさを感じました。

ボランティアの皆さんは、連日暑い中、朝から晩まで、本当に頭が下がりました。こういう市民の方々あっての大会だと本当に痛感しました。

今回は、レースコミッティとしてだけではなく大会に携われたことが本当に貴重な経験となりました。これからもこういうことを一つ一つ積み重ねて成長していきたいと思います。

日本 420 協会の理事長である重さんには本当にお世話になりました。ヨットハーバーの職員の皆さんも少ない人数で大会に関わる多くの仕事があり、本当に大変だったと思います。皆さん心身ともにお疲れだと思いますのでゆっくり休んでいただきたいと思います。



最後に、今大会、初めて日本チームが 420 ワールドチャンピオンになりました。2020 年の東京オリンピックにも期待が高まってきます。私たち運営側も選手に負けなくらい準備や練習をしていく必要があります。運営スキルはもちろんですが、やはり英語も避けては通れません。本部船で大谷さんの通訳がなかったらどうなっていたでしょう。

また、運営ミーティング時には、運営メンバーである山口の花田さんが通訳をしてくださいました。英語が話せてもヨットを知らないボランティア通訳さんには運営ミーティングの通訳はうまくできないでしょうから、本当に助かりました。

今大会に携わり、準備の大変さ、日本であっても国際レースならではの英語でのコミュニケーションの重要性を再認識しました。

唐津での 1 ヶ月に及ぶ生活は、ハードながらとても楽しかったです。そう思わせてくださった唐津の方々に心から感謝いたします。数十年前に唐津の OP 大会でガラムが切れリタイヤして泣いていた中学生が、今回レース運営スタッフとして唐津を訪れ、こんないい経験をさせていただいて、感慨ひとしおです。

貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

大会公式サイト：<http://2015worlds.420sailing.org/>